

平成 30 年 1 月 9 日

敬愛短大附属幼稚園だより 1月号

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

幼稚園の子どもたちは一年ごとに心も体も大きく成長しています。そこで、新年にあたって私たち大人の成長に視点をあてて考えてみたいと思います。

【鷹の選択】の話

鷹は鳥の中でも翼も大きな強い力を持った鳥で、上空高く舞い上がり、急降下して獲物を素早く捕えることのできる食物連鎖の頂点にいるような存在です。通常、鷹は〇〇タカのように分類され、比較的小型のものの名称で、大型のものは〇〇ワシのように呼ばれています。（タカという単独の名称の鳥は存在しません）

そんな鷹も寿命はおおよそ70年と言われています。しかし、このように長生きするためには約40年が過ぎた時に重要な決断をしなければなりません。鷹は約40歳になると爪が弱くなり獲物がうまくとれなくなります。くちばしも長く曲がり胸につくようになります。羽も重くなり、徐々に飛べなくなります。

ここで鷹は2つの「選択」を迫られます。このまま何もしないで死ぬ時期をまつのか、それとも苦しい自分探しの旅に出るか。自分の変化の道を選んだ鷹は、まず山の頂上に巣を作ります。その後、鷹はとても苦しいいくつかのことをやり始めます。

まずくちばしで岩を叩き、壊してなくします。そうすると新しいくちばしが出てきます。それから、出てきたくちばしで爪を一枚ずつはぎ取ります。そして新しい爪が生えてくると、今度は羽根を1本ずつ抜きます。

こうして半年が過ぎ、新しい羽が生えてきた鷹は新しい姿に生まれ変わります。そしてまた空に高く跳び上がり、残りの30年間を生きていきます。

人は誰でも過去よりは成長することを願います。成長を望み、もっと新しい自分を見つけるためには心の底から「変化」を期待し、行動しなければなりません。

大切な人生の生きる意味に気づき、「涙」と「笑顔」で成長する自分と向き合うためには、この鷹が見せてくれたとても苦しい「選択」という勇氣ある決断が必要なのかもしれません。

人生の価値は「速さ」と「広さ」ではなく、「方向性」と「深さ」であることを忘れない。あなたが心から探し求めている「生きる意味」は何でしょうか？ どのような自分を求めていますか？ 変わりたい自分が「こころの扉」をたたくのであれば、その気持ちと素直に向き合い、最も大切なことを選ぶ「勇氣」を忘れない。そして、「成長」を求める自分を否定しない。これが生きる意味と向き合う私たちに贈る鷹からの教訓かもしれません。

この話は専門的に見ると、野生の鷹はもともと70年も生きることが出来ないとか、食べ物を食べる時に自然にくちばしは摩滅するので長くならない。爪が伸びて獲物がとれなくなった時点ですでに生きられない。そして、羽は毎年生え変わるなどありますが、教訓としてポジティブに捉えれば良いのではないのでしょうか。

平成30年度の幼稚園の研究は、平成28年度の「みつける」、平成29年度の「みつけるための援助」を経て「つながる」にステップアップします。「かがくのひみつきち」も連動して「つながる」を視野に入れ、園内に「子ども研究所」（仮称）を設立し、ひみつきちの内容も研究所につなげていきます。現在、そらぐみ内にある自然研究所を発展させるために、どんな研究所にしたら良いかについて、子どもたちどうしてアイデアを出し合いながら、名称や内容、運用方法等について話し合ってもらっています。こうして年長さんが卒園する前に体制を整えて新しい研究所の所長さんや博士さんたちにつなげて行きたいと考えています。この研究所が機能するようになると園全体で「科学する心」の連鎖が始まります。

（園長 杉山）